



農業者の皆さんへ！

肥料代節約のすすめ

肥料原料の価格が上昇し、肥料が値上がりしています。
土壌診断、肥料や施肥法の変更で、肥料代の節約に努めましょう。

ポイントは5つ！

栽培品目や土壌条件を考慮した選択、組み合わせでコスト低減体系を組み立てましょう。

POINT 1

土壌診断に基づく施肥
改善



POINT 2

堆肥等を活用した化
学肥料の節減



POINT 3

施肥方法の改善による
施肥効率の向上



POINT 4

低価格肥料の導入

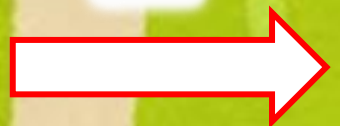


POINT 5

緑肥の利用



詳しくは次ページ
を！



① 土壤診断に基づく施肥改善 → **A 土壤診断による施肥設計**に該当!

土壤中の利用可能なりん酸、加里含量が一定以上の場合、それぞれの施肥量を減らすことができます。

表1 作物別、成分別の減肥例

品目	成分	基準	減肥量 (kg/10a)	費用 (円/10a)
水稲	りん酸	15 以上	4 (8 → 4)	-2,000
	加里	20 以上	4 (8 → 4)	-700
すいか	りん酸	40 以上	15 (15 → 0)	-7,500
おうとう	りん酸	20 以上	6 (6 → 0)	-3,000
	加里	80 以上	12 (12 → 0)	-2,000



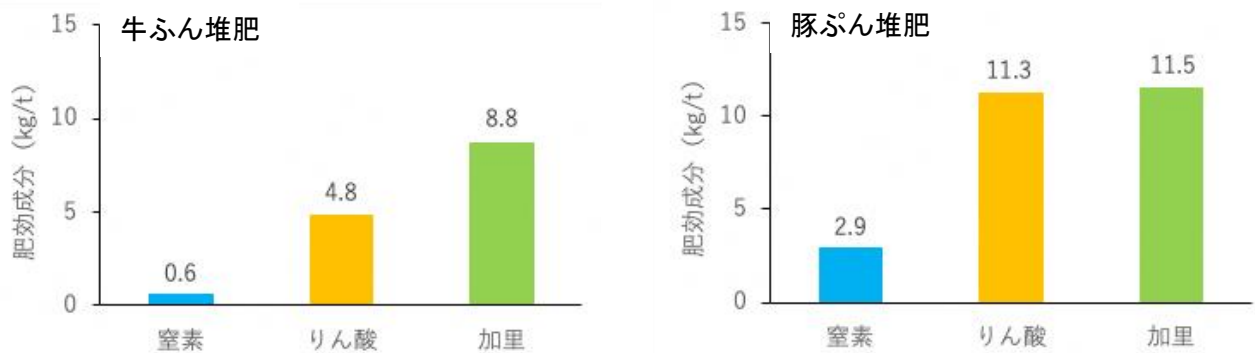
りん酸、加里は足りていますね。

減肥でこれだけコストが下がるんですね。



② 堆肥等を活用した化学肥料の低減 → **E 堆肥の利用**に該当!

堆肥には利用可能な窒素、りん酸、加里が含まれているので、その分の化成肥料の施用量を減らすことができます。



堆肥1トンあたりの肥効成分含量

表2 水稲で豚ふん堆肥を施用してりん酸、加里を供給した例

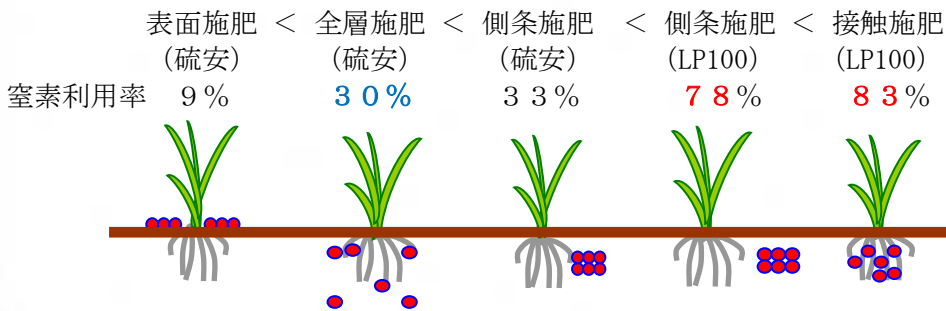
体系	肥料		肥料費 (円/10a)
	基肥	追肥	
慣行体系	化成肥料E (基肥用)	化成肥料F (追肥用)	7,500
窒素単肥 + 堆肥体系	硫安	硫安	5,000
	堆肥		

堆肥でりん酸、カリウムが賄えるんですね。



③施肥方法の改善による施肥効率の向上 → シ 局所施肥の利用に該当！

肥効調節型肥料を側条施肥や接触施肥することで、肥料の利用効率が高まり、必要な施肥量を低減できます。



肥効調節型肥料を使うとずいぶん施肥量が少なく済みますね。



*野菜栽培などは、マルチ内施肥やうね内施肥をすることで施肥量を20~50%低減できます。

④低価格肥料の導入 → コ 低成分肥料の利用に該当！

りん酸、加里が低減できる場合には低成分肥料を使用するなど、施肥の目的や肥料の価格を考えて適切な施肥方法を選択しましょう。

表3 化成肥料における各成分単価比較(例)

肥料名	肥料価格 (円/20kg袋)	窒素1kg当り 単価(円)
化成肥料A	3,480	1,160
低PK肥料B	2,790	930
一発肥料C	4,820	1,205
低PK一発肥料D	3,710	905
硫安	1,600	381
尿素	2,250	245

「はえぬき」の場合、10アールあたり

低PK肥料で1,800~2,400円↓
単肥で6,200~7,300円↓

低PK肥料や単肥を選ぶと安く済みますね。



*表中の価格は、聞き取り(R4.5月)による販売価格に基づく参考価格

⑤緑肥の利用 → ク 緑肥作物の利用に該当！

窒素固定を行うマメ科緑肥作物を栽培し、すき込むことで、化成肥料を減らすことができるほか、土づくりの効果も得られます。

表4 えだまめにおける慣行栽培と緑肥利用の費用の比較(例)

栽培方式	施肥量(kg/10a)	費用(円/10a)
慣行栽培	3	7,000(化成肥料)
緑肥利用	0	3,625(緑肥種子*)

土づくりにも役立つんですね。

*ヘアリーベッチを9月下旬に播種し、翌年5月下旬に鋤き込み後、6月上旬に栽培開始した事例。



支援メニューの積極的な利用を！



肥料価格高騰対策事業

化学肥料の低減に向けて取り組む農業者の皆様の肥料費を支援します。

<支援の対象となる肥料>

令和4年6月から令和5年5月に購入した肥料が対象です。

<支援の内容>

前年度から増加した肥料費について、その70%を支援します（国支援分）

山形県 肥料価格高騰緊急対策事業

山形県では、国支援分（前年から増加した肥料費の70%）に15%を上乗せして支援金を助成します。併せて、土壌分析や堆肥等の利用拡大を通し、化学肥料の低減に向けた取組みに必要な機械の導入等を支援します。

（補助率：機械等の導入費の1/2）

○想定している機械の例

簡易土壌分析機器、堆肥散布機、ペレット堆肥成型機、ブロードキャスター、
緑肥すき込みモア、側条施肥機能付き田植え機、局所施肥機能付きうね立て機

など

施肥量低減にかかわる技術的な相談は
最寄りの農業技術普及課へ

事業のお問い合わせは

山形県農林水産部農業技術環境課へ

（電話：023-630-2408、2481）